

農林水産大臣賞受賞

受賞者 たいらせいさん かんりくみあい 平生産管理組合

(長野県長野市)

【共助共生社会の実現により、農地を守る、地域を守る】

1 取組の動機と背景

平生産管理組合が活動する長野市芋井地区は、標高 700m～800mの急傾斜地の多い中山間地であり、生産基盤が整備されておらず、農道等の耕作条件が不利な圃場もあることから、耕作放棄地の発生が懸念され始めていた。そのような中、農地の減少に歯止めをかけるため、平成 12 年度から始まった「中山間地域等直接支払制度」を取り入れることとし、本制度の活用により、地域内の耕作放棄地の発生を防止し、組合員の農業生産を協業等で取り組むことにより、将来にわたって、持続的な農業生産活動を行い、地域活力の増進、生産性の向上及び組合員の共同利益を増進させることを目的とする平生産管理組合を平成 12 年度に設立した。

地域実情の把握や組織の運営方法を検討するため、住民アンケートや話し合いを重ね、高齢化等で耕作が継続できない農地を共同作業で支援する独自の「営農支援規定」を定めるなどの活動により、中山間地の耕作放棄地の発生防止に取り組む他、県・市・地区住民自治協議会などとの連携によって、組合で栽培する「大豆」の加工品販売や農家民泊、県内外集落営農組織との交流を通じた中山間地域の活性化に取り組んでいる。

2 主なむらづくりの内容

- 個人の農地や高齢のため管理できなくなった農地及び耕作放棄地を解消し、約 4.5ha の農地で大豆や米、ミニトマト等を協業で栽培することで耕作放棄地の発生・解消に貢献。
- 栽培した大豆の一部（規格外）を加工業者に委託し、豆菓子「芋井のまめっこ」として地元 JA 直売所や観光施設で販売。商品ラベルは芋井小学校の児童がデザインし、地域を PR する豆菓子としてのブランド化に取り組む。
- 本組合の役員に女性を登用し、女性ならではの視点を活かし、ミニトマト栽培等の組合経営に積極的に参画。また、水稻の育苗や大豆の脱穀・選別作業といった共同作業の参加者の半数以上は女性が占め、さらに、地域内外の交流イベントでは、女性達が中心となり楽しみながら、地区の農産物・加工品を販売。
- グリーン・ツーリズムの一環として、平成 22 年度から組合内の 10 戸の農家で、農家民泊の受け入れを実施。東京都内の中学生など地域外の人に、芋井地区の農村・農業の素晴らしさや伝統芸能を知ってもらう機会を提供。



「芋井地区」全景



協業による「ミニトマト栽培」



大豆加工菓子「芋井のまめっこ」



「農家民泊」による農業体験・交流